令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

- 議長 大釜 登 ただいまの出席議員は8人です。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

3月4日に引き続き会議を再開いたします。 （午前10時00分開会）

直ちに本日の会議を開きます。 （午前10時00分開議）

議事日程第2号はお手元に配付のとおりであります。

◎ 日程1番 一般質問

- 議長 大釜 登 日程1番 これより一般質問を行います。先例に従い、通告順に行います。

- 議長 大釜 登 順番1番 西山富夫議員、発言願います。

- 議員 西山 富夫 通告に基づき、質問します。今、道の駅は第3ステージに入っています。まずは、制度が導入されたばかりの第1ステージ（1993年～）ですが、道路利用者が安心して休憩できる場所を提供するのが目的でありました。そして、その制度が浸透した第2ステージ（2013年～）ですが、道の駅自体が観光の目的地になり、より人を引きつける場所となっています。そして、現在第3ステージ（2022年～）ですが、地方創生・観光を加速する拠点として、観光だけではなく、防災拠点としての役割も期待されています。昨年9月にオープンした道の駅275つきがたであります。観光の発信点はもとより、様々な役割があると思われま。月形の道の駅は、防災道の駅ではありませんが、災害時、どのような役割を果たしていくのか伺います。

- 議長 大釜 登 町長。

- 町長 上坂 隆一 お答えいたします。本町の道の駅は、昨年9月に、北海道で128番目の道の駅として開業しました。道の駅は、道路事業者への安全で快適な道路交通環境の提供や地域の振興に寄与することを目的に、24時間利用できる駐車場やトイレなどの休憩機能、道路や地域の情報を提供する情報発信機能、道の駅を生かした活力ある地域づくりを行う地域連携機能の三つの機能を併せて持つこととしていますが、議員のご指摘のとおり、特に近年は、防災拠点としての機能を併せ持つことに注目されています。

2004年に発生した新潟県中越地震において、道の駅が被災者の避難所や支援施設として活用されたことから、国土交通省では道の駅を防災拠点として位置づける取り組みを進めています。北海道においては、特に暴風雪災害時の避難場所として活用されており、中でも2013年3月にオホーツク管内を襲った暴風雪では、残念ながら死者も発生したことから、記憶に残っていると思われま。この事象の際には付近の道の駅で、天気予報を受けて臨時の避難所として、避難者の受け入れをいち早く行い、女満別の道の駅では車150台と、130名の避難者を受け入れています。

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

本町におきましても、2021年2月に、暴風雪により、本町に通じる国道275号線、道道岩見沢月形線、道道月形峰延線、道道月形幌向線が通行止めになり、本町の事業所等で勤務されている方や偶然本町を訪れた方が帰宅困難に遭ったことから、当時の月形温泉ホテルを開放し、防災備品の飲料水やアルファ米などを提供した経緯があり、現在は、国からも国道災害時の避難所として協力要請を受けています。現在、道の駅には、本町と北海道コココーラボトリング株式会社、北海道開発局の三者が連携し、災害情報などを提供する自動販売機を設置しています。この自動販売機は、北海道開発局が提供する通行規制情報などが掲示され、大規模な災害が発生した際には、市町村の判断で、自動販売機内の在庫商品を無償提供できることになっています。そのほかには、おむつや粉ミルクの販売機も設置されており、緊急時の対応が可能です。

また、昨年9月のリニューアルオープンから、レストランが設置されており、状況に応じて保管されている食材による食事提供も可能と考えています。大規模災害に備え、事前防災や減災の視点からも、道の駅の果たす役割は大きいと考えております。本来、道の駅は沿道の休憩施設であることを考えると、平時の基本機能の充実において、防災機能の向上を図ることができるため、効果的であり、効率的と考えます。多くの道の駅には、農産物等の販売所、売店やレストランにおける備蓄、交通情報や災害情報の発信など、非常時に果たす機能を平時に活用できている強みがあると考えます。

国が進める防災道の駅とするには、前提として、北海道の地域防災計画に広域的な防災拠点として位置づけられる必要がありますが、本町の道の駅一帯は、洪水時には浸水地域になることから、避難所も含めた防災の拠点とすることは非常に困難と思われます。しかし、月形町では、特に冬季における暴風雪災害時においては、一時避難所として大きな役割を果たすことが可能と考えております。以上、答弁を終わります。

- 議長 大釜 登 西山富夫議員。
- 議員 西山 富夫 ありがとうございます。確かに月形の道の駅は川沿いにあり、水害時の避難所としての道の駅は使えないと思いますが、そのほかの雪害、道路の寸断、雪崩等による災害弱者の場を設けることは可能でしょうか。
- 議長 大釜 登 町長。
- 町長 上坂 隆一 先ほどお答えしたとおり、以前にも実績がありますし、可能であります。
- 議員 西山 富夫 ありがとうございます。災害がないのが一番ですが、そのような役割を果たしていただくということで、確認しました。これで質問を終わります。

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

- 議長 大釜 登 順番2番 松田順一議員、発言願います。
- 議員 松田 順一 それでは、質問させていただきます。去る3月1日に公立高校入試の最終出願状況が発表されました。北海道新聞の空知版の記事を読みますと、空知の公立高校で定数に達したのは、調理師や製菓など職業科がある三笠高校のみで、他の公立高校は定数に満たなかったとのことでした。いかに空知の生徒数が減少しているかと考えられます。

南空知の南学区の中学生の生徒は、札幌市の公立ばかりでなく、札幌光星高校などの私立高校の進学校にも出願し、中北空知の北学区では、地域の公立高校ばかりでなく、旭川市などの公立高校に出願する状況があると考えられます。地元の月形高校の出願状況は、募集人員40名に対して4名の推薦があり、入学が内定しました。また、12名の出願があり、総人数は16名になりました。

この結果から、今年度も20名に達せず、月形高校の存続は依然厳しい状況が続くこととなります。この状況を踏まえて、月形高校に町の学校給食センターの給食を提供する可能性についての通告であります。過去にも同僚の議員から同様の質問がされているわけですが、改めて教育長に伺います。

町では、月形高校に人づくり振興事業で通学定期券の購入や各種模擬試験、検定試験の受験料の助成などで支援をしております。令和7年度の町政執行方針においては、月形高校の取り組みを支援し、一体となって同校の魅力化や生徒への支援拡充など、必要な対策を講じるとしております。

また、教育行政執行方針において、令和5年から月形町と月形高校がともに地域未来留学事業に取り組んでいたところ、今年度1名の留学生が確保されたとのことでもあります。

今後、日本中から来る留学生や町内外から月形高校に入学する生徒への支援策として、学校給食を提供することが可能かどうか、教育長に伺いたしたいと思います。お願いいたします。

- 議長 大釜 登 教育長。
- 教育長 兼平 晃成 松田議員の一般質問にお答えいたします。月形高校に学校給食を提供することが可能かどうかというご質問でございますが、児童生徒数が減少してきていることもあり、給食センターのキャパシティの面からは提供が可能でございます。ただし、実際の提供に当たっては、いくつか解決していかなければならない課題や条件があることも事実です。まず、給食1食分の分量について、現在、中学生に提供しているものと同じであれば、ということが前提となります。高校生には中学生よりも分量が多くなるということになれば、小学生分、中学生分に加えて高校生分が増えるということで、作業量の関係で食材の準備や調理に時間がかかり、現在の人員や体制では難しくなります。

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

また、給食センターに消毒保管庫や配送コンテナなど、新たに備品をいくつかさそえる必要があります。配送についても、現在は1回で済んでいるのが2回となります。次に、高校側の課題として、まず給食の受渡し方法の問題があります。小中学校には搬入口がありますが、道立学校にはございませんので、給食の搬出入の方法を考えなければなりません。

また、給食費について、保護者負担の同意を得られるか、徴収義務を学校が行えるかも課題となると思います。

最後に、本町の学校給食の課題として、給食センターの施設設備の老朽化が進んでいる中で、学校給食をどう維持していくかという大きな問題があります。現状から考えると、その判断について時間的な猶予はあまりないものと私は考えております。

国の給食無償化の動向もにらみながら、スクールランチや他市町の給食センターへの委託等も含めて、学校給食の持続可能な在り方について多面的に検討していかなければなりません。その行方によっては、仮に月形高校へ給食を提供することになったとしても、どこまで持続可能かということについては不透明な部分があることを申し添えたいと思います。

以上、様々申し述べましたが、教育委員会といたしましては、食数面からは提供可能でございますので、話が具体的になった時点で、実現可能な方策を速やかに検討させていただきたいと考えております。以上でございます。

- 議長 大釜 登 松田順一議員。
- 議員 松田 順一 今、教育長から、月形学校給食の状況、それから高校生と中学生との分量の差、それから高校自体の搬入口だとか、それをどうしたらいいのか。それを町が持つのか、道が持つのか、もしくは学校給食そのものが父兄の皆さんが高校の先生、子どもたちがそれを受け入れてくれるのか、そういう多面的な問題が今お話にありました。そういう点については、非常に今までも考えられてきたことだと思います。

ただ、新十津川農業高校という高校がありまして、ここは町の学校給食センターから高校生に提供しているということなので、それなりの詳しいことは知りませんが、今言われたような問題をどうクリアしているか、私自身も今のところでは知りませんが、そういう可能性があるということは事実だと思っておりますし、クリアできるものはクリアできるかなと思っております。

今、そういう中で、教育長の言われる給食センターの老朽化、それをどうするのかという問題もあるということですので、今の段階で教育長がお話しされることは理解いたしますが、しかしながらそれも解決していかざるを得ない状況であることは間違いのないと思います。そのようなことで分かるのですが、今先ほど学校給食の無償化も進んできているというお話が教育長からありまし

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

たが、現実問題として、今月の4日に国の令和7年度予算案が衆議院を通過し、高校授業料の無償化の先行措置として、今年度から国公立私立を問わず全世帯に年11万8,800円の就学支援金を支給する費用が1,064億円計上されたということでもあります。

大阪府では、国に先駆けて高校授業料が無償化されており、公立高校に通う生徒が減り、学校設備の整った私立高校に行く生徒が増えたとのことでもあります。今後は空知学区の月形高校ばかりでなく、石狩学区で札幌周辺の当別高校においても、普通科の募集人員が1クラス40名に対して出願数は14名になるということになっております。今後、ますます地域の公立高校の存続が大変になると思いますが、この学校給食の無償化というか学校給食の導入も、今後検討していただければと思います。以上、私からはこれで質問を終わらせていただきます。

- 議長 大釜 登 教育長、何もないですか。よろしいですか。
- 議長 大釜 登 教育長。
- 教育長 兼平 晃成 私自身も実は、以前、中学校の校長をしておりましたときに、月形高校に学校給食を導入するのはどうなんだろうかということで、当時の教育長とお話をしたことがございます。様々な課題があつてそのときは実現しなかったということがございますけれども、実際に導入するとなると、お話し申し上げましたようないろいろなことをクリアしていかなければいけないわけですが、決してやらないということではなくて、できるものならば、やっていくこともありだと私自身は考えておりますので、様々な場面で検討いただき、そして私どもも検討して、具体的な話になれば、本当に進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
- 議長 大釜 登 松田順一議員。
- 議員 松田 順一 今、教育長から心強いお言葉とお返事をいただきました。今後、高校等の方といろいろすり合わせがあるかもしれませんが、その辺のことも踏まえて、よろしく願いしたいと思います。
- 議長 大釜 登 順番3番 東出善幸議員、発言願います。
- 議員 東出 善幸 それでは、通告に基づき、質問をいたします。昨年も私のほうで質問をさせていただきましたけれども、町立病院の今後の診療体制についてでございます。令和6年第2回定例会で、町立病院の今後の診療体制について、私は一般質問を行い、町長は今後も2名の常勤医師の診療体制で、より良い病院運営に努めると答弁をしています。その後、議会の全員協議会やまちづくり常任委員会で、月形刑務所医務課診療所医療業務を受託したことにより、令和7年4月に新たな医師が着任するとの説明がありました。

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

また、町政執行方針でも、総合診療医1名の増員を図り、常勤医師3名体制での診療を行うなど体制の充実を図っていくと述べています。充実した体制により、医師をはじめ、医療スタッフの負担軽減につながり、各種検査等の充実により、町民や患者にとっては安全安心で大変喜ばしいことであると思います。一時は医師が充足できず、診療所への移行も検討されましたが、事務の懸命な努力により、医師も充足できました。私が調べた限りでは、医師の充足度を示している医師偏在指標によりますと、救急や入院治療を受けられる2次医療圏の北海道21圏域で、札幌と旭川の上川中部だけが全国平均を上回る医師多数区域となっており、それ以外は全国平均を下回り、空知は中間区域を下回り、医師少数区域に該当しています。

月形町立病院は、医療法上の医師数が3人であり、出張医も含めると医師数は大幅に充足しています。そのような中、今後どのように体制の充実を図り、医療サービスの提供及び収支についてどのように考えているか伺います。

○ 議長 大釜 登 町長。

○ 町長 上坂 隆一 お答えいたします。町立病院の診療体制ですが、まずは院内での診療体制についてご説明させていただきます。院内の医師の体制ですが、常勤医師を1人追加し、3人体制でローテーションを組みながら、外来診療、入院患者様への診療、検査等の業務に当たる計画としております。令和7年度からは、月形刑務所内診療所の診療業務が新たに始まりますので、院内にはおおむね2人の内科常勤医が勤務する体制をとる計画であります。

整形外科の診療につきましては、令和6年11月から非常勤医師の関係で、診療日程が少なくなりました。具体的には、水曜日は1日診療であったわけですが、午後のみ診療となっております。令和7年4月からは1日診療に戻すことが可能となりました。これにより整形外科の診療は、毎週水曜日1日と、第1、第3、第5火曜日の午前中の診療へ体制が変更になります。診療体制、医師体制以外の変更点としては、医師のほかに、検査体制を強化します。

従来検査業務については、主に委託業者の職員の派遣を受け実施しておりました。この検査技師の派遣を受けての検査体制ですと、検査技師がいるにもかかわらず、町立病院の職員でないため、制度上の話になりますが、血液検査や尿検査等の検体検査のみしか実施できませんでした。ですので、エコー検査については月1回程度ですが、他の病院から検査技師の派遣を受けて実施しておりました。これを解消するため、令和7年度は会計年度任用職員で検査技師を採用します。これにより、従来実施していたエコー検査が技師の派遣の日程にかかわらずできるようになります。

また、従来看護師が実施していた心電図検査や採血等についても、検査技師が実施することが可能となり、不足気味であった看護師の負担軽減にも役立ち

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

ます。検査技師については、院長及び副院長とも相談し、検査数を増やすことを目的に、週1日のみの勤務とする非常勤職員についても確保しておりますので、患者様の検査受診の機会の充実が図られます。

刑務所診療所の医師体制ですが、常勤医師3人と非常勤医師を合わせた体制で診療を行う計画としております。刑務所診療所の内科診療については、月曜日から木曜日の週4日間となっております。常勤医師は週に1回から多くても2回の診療となる体制とします。刑務所診療所で非常勤医師を配置して診療するのは、常勤医3人が本院での検査や病棟管理といった時間をより多くつくり、より良い医療の提供を行うことや医師の負担軽減を図ることを目的としております。刑務所内での受刑者の診療につきましては、やはり通常の診療とは異なり、刑務官立ち会いの中で長時間にわたる診療となり、医師への負担も大きいと聞いております。

なお、刑務所診療所の内科休診日の金曜日については、歯科医師による診療を行います。町内の歯科医師に協力をお願いし、了承を得ております。刑務所診療所の医師以外の職員の人員体制ですが、看護師1人、准看護師2人、診療放射線技師1人、医療事務員3人を基本に、薬剤師1人を非常勤で雇用し対応する計画となっております。

令和7年度から新たに取り組みを始める診療所の運営ですが、月形刑務所と連携を図り、スムーズな運営を目指すとともに、診療所の職員を含めた町立病院全体の職員数を増やすことにより、町立病院の診療体制も併せて充実させることが期待できると考えております。

経営収支について、道内の小規模自治体病院は非常に厳しい経営状況が続いている中、町立病院については、令和3年度から令和5年度までの期間は黒字決算となっております。しかし、この期間については新型コロナウイルス感染症関連の補助金や特別に診療に対する加算がつけられるような優遇措置もありました。令和6年度からは補助金や優遇措置がなくなり、町立病院の経営も厳しくなっている中、一般会計負担金については、令和6年度もいわゆるルール分のみで運営を行っております。今後においてもルール分の繰入れにより運営できることが望ましいですが、町民の皆さんが安心して暮らせる医療の提供を最優先と考え、医療提供体制の充実と安定経営に向けた経営を目指してまいります。

- 議長 大釜 登 東出善幸議員。
- 議員 東出 善幸 詳しく答弁していただきまして、ありがとうございます。刑務所関連につきましては、予算委員会でも再度質問をさせていただきたいと思っております。医療提供体制の充実と答弁されました令和6年第2回定例会一般質問で、令和6年度から訪問看護や在宅医療について検討を始める。そのた

令和7年第1回月形町議会定例会 2日目（3月13日）

めにも、看護師が研修を受ける予定と答弁しています。今回、医師や医療スタッフの増員により、今後、訪問看護や人間ドックなどを検討できないか伺います。

- 議長 大釜 登 病院事務長。
- 病院事務長 高田 恵一 健診や訪問看護在宅医療につきまして、令和6年度に訪問看護、特に訪問看護につきまして看護師が研修を実施してございます。今後につきましては、まず、令和7年度から刑務所診療所が新たに始まります。こちらに関しましては、かなりウエイトも大きく、実際に動かしてみないと分からないところもございまして、特に職員の配置につきましては、少し不足する可能性等もございまして、まずは令和7年度につきましては、刑務所診療所をスムーズに運営することを最優先にいたしまして、在宅ですとか訪問につきましては、研修等は行い検討はしますが、すぐ近い将来実施するかどうかというのは、まずは刑務所をスムーズに運営させてから検討したいと考えております。
- 議長 大釜 登 東出善幸議員。
- 議員 東出 善幸 刑務所をスムーズにするためにも、まずは在宅訪問看護等について少し様子を見るということで、答弁でありましたけれども、まず、刑務所はまだやっていないわけですから、当然診療してみてもどのようなことがあるか分からないという中で、それは十分に私も分かりました。最後ですけれども、当然これだけ医療スタッフが多くなりますと、いろいろと考え方や要望、課題があると思います。町長は今後、医師や医療スタッフとの定期的な懇談会を考えていないのでしょうか。
- 議長 大釜 登 町長。
- 町長 上坂 隆一 もちろん、定期的に懇談できればよいとは思っていますけど、診療体制等を十分考慮して、できるだけ現場の職員と対話を密にしていきたいです。特に、院長とも十分に話をしていきたいと思っております。
- 議長 大釜 登 東出善幸議員。
- 議員 東出 善幸 町長は、病院の開設者であるわけですから、当然これだけ医療スタッフが多いとなると、いろいろな考え方が出てくると思います。やはり、3人の医師がいるということは本当に恵まれているし、大変町民も安全・安心でいると思いますので、ぜひ、医師はじめ医療スタッフとの懇談会を行っていただき、声をぜひ聞いていただきたいと思います。終わります。
- 議長 大釜 登 以上で本日の一般質問を終わります。
- 議長 大釜 登 本日の日程は全て終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。

(午前10時38分散会)